

宿毛湾における赤潮発生予測情報 R8-1

【概要】

- ・ 令和8年4月22日の環境調査で、コクロディニウム・ポリクリコイデスの細胞密度が1 mLあたり10細胞（注意基準値）を超えました。
- ・ これまでの知見から、コクロディニウム・ポリクリコイデスの細胞密度が10細胞/mLを超えると、その後、2週間以内に漁業被害が強く懸念される100細胞/mL（警戒基準値）に達する傾向があります。
- ・ 現在、湾内の深度5mにおける水温は20℃台であり、コクロディニウム・ポリクリコイデスが**増殖可能な環境にあることから、今後増殖する可能性があります。**
- ・ これらのことから、今後本種が増殖可能な状況が続いた場合、**本日から5月上旬までの間に100細胞/mLに達する可能性が高い**と考えられます。
- ・ 海や養殖魚に変化が生じたときは、すみやかに対応できるように十分注意してください。

【赤潮発生予測について】

- ・ 水産試験場では、過去の宿毛湾におけるコクロディニウム・ポリクリコイデスの赤潮発生状況のデータに基づき、赤潮発生シナリオを構築しました。
- ・ そのシナリオから赤潮発生予測マニュアルを作成し、本年度から予測情報を提供します。

【コクロディニウム・ポリクリコイデスの赤潮発生の傾向】

- 1 海水中の本種の遺伝子量が増加傾向にあると、その後、赤潮の発生リスクが高い
- 2 調査定点の細胞密度が10細胞/mLを超えると、2週間以内に本種が100細胞/mL以上まで増殖する可能性が高い
(これまでの赤潮発生までの日数：最短3日、最長38日)
- 3 深度5mの水温が19℃以上になると、本種の赤潮が発生する事例が多い

以上